



我が国も3次元化が一般的になってきた。高性能デジカメ・タブレットPC・スマートフォンによるデータ採取から、3次元CAD編集・3Dプリンターによる3次元出力ができる。上昇気配の経済が3次元エンジニアリング拡大のチャンス加速させるだろう。発行責任者 坂根 勝



標高が変わる？

三角点の標高成果改定が4月1日に行われます(国土地理院発表)。電子基準点を既知点としたGNSS測量が行われている三角点と旧来の測量方式の標高成果のままの三角点との間の標高不整合を解消するために、今回標高成果改定を実施していない全国の三角点約10万点の標高成果が改定され、公共測量の補正として加わることになりました。その結果、一部の山岳標高が改定されます。日本の山岳標高一覧の1003山のうち、48山が+1m, 39山で-1mとなります。近隣の山では、箱根山が1m低くなるようです。測量技術の進歩による数値の変更の反映が早くなってきました。(詳細は国土地理院のホームページをご確認ください。)

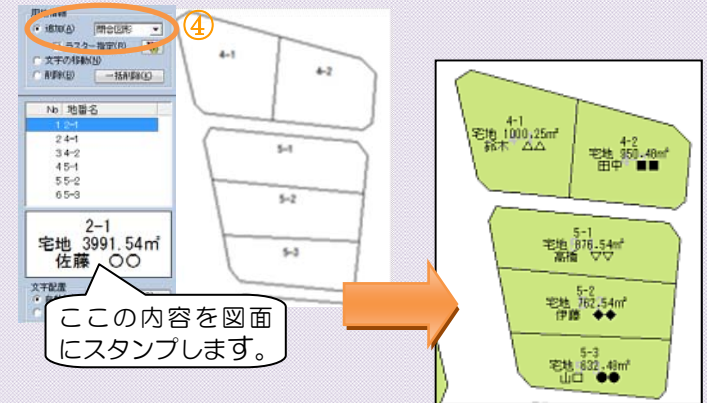
ビジネスを加速させるには人財確保が重要

政府は経済対策の一環として、上半期に予算の前倒し実施を行い、公共事業に多くの予算を投入して景気を刺激することとしています。そんな建設バブルともいえる状況の中、人財不足により入札不調が相次ぐ自治体が出てきています。特に建設業界における人財の確保は喫緊の課題となっています。そのため、最近発売される測量機器は、熟練技術者の人財の不足と教育時間の不足を埋め合わせるべく、機能を限定して誰でも扱いやすい機器が中心となっています。コンピュータやロボットにできることは増えていますが、ビジネスの中心はやはり人間です。利益を生み出すにはよい人財の確保が重要です。そのためには、魅力的な職場の環境、テクノロジーを活用した業務提案、進取の気性が重要です。仕事の士気を上げ、よい人財を育成することができる会社が生き残っていくことでしょう。

公図転写連続図簡単作成

公図写し作成時に登記簿情報を入力する際、BLUETREND XA 2014の新機能「用地支援」を使うと、地番管理に登録してある地番や地目、所有者などの情報を図面上にワンクリックで配置できて、入力・確認の手間が省けます。

①専用タブの**測量**：**用地支援**をクリックします。②「転写連続図に用地情報配置」をクリックします。③地番の抽出条件を選択して「抽出実行」をクリックします。④追加方法を指定します。(ラスタピックオプションがあれば、ラスタ上の閉合図形も選択できます。)⑤地番情報を入力したいところを、登録された地番名の順にクリックすると情報が配置されます。(「地番項目」で配置する内容、「文字設定」で配置するフォント・位置を設定できます。)



3Dプロジェクションマッピング

近年の機器の進歩によって、以前よりあった技術が飛躍的に活躍の場所を広げているものがあります。その一つが3次元データを活用したプロジェクションマッピングと呼ばれるものです。高輝度のプロジェクターとコンピュータソフトを用いて、対象物に映像を映し出すことのできる技術です。最近では東京駅でのイベントや、アーティストが演出で衣装に映像を投射させているのをご覧になったことがあるかもしれません。対象となるものに、図面データからの3Dモデリングや、投影しながらの調整、3次元レーザースキャナーの利用で3次元のデータや位置取りの情報収集が必要となります。そのデータをもとに、投影する映像の位置を確定していきます。とても夢のある技術でもあり、広告やアートの分野だけではなく様々な活用が期待されています。小さな対象物でも試せるアプリも出ています。3次元データの活用の事例は今後ご紹介していきます。

NFCって何？

このところ「NFC (Near Field Communication=数センチの近距離無線通信)」が注目を集めています。スマートフォンでもNFC対応が広く謳われるようになったことで目にする機会も増えました。簡単にいえば「かざして通信」するための規格です。かざすと聞いてイメージするのが、「Suica」「PASMO」「おサイフケータイ」などですが、これらは日本発の規格である「FeliCa」をベースにしているため、サービスエリアは国内に限定されたり、互換性が弱いというデメリットがあります。その点「NFC」の最大の魅力は世界標準規格と高い互換性にあります！NFCはグローバルでの利用が見込め、その潜在市場は計り知れません。国内でもNFCの普及に先んじて、さまざまな企業がNFCビジネスに本腰を入れ始めました。この続きは次号で取り上げます。



使っていますか？

XA2014のプレビュー機能

2014の特徴の一つがプレビュー機能です。現場管理の図面データタブやプログラムのメインメニューの左下に表示される図面のプレビューは、そこをクリックすることで直接その図面を開くことができます。計算書や求積表を配置するときに表示される計算書プレビューボタンをクリックすると、プレビュー画面を見ながら計算書タイプの選択ができます。

